北海道公立大学法人
札幌医科大学
Sapporo Medical University

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title 論文題目	被害妄想的観念の構造に影響する要因の検討
Author(s) 著　　者	村上，元
Degree number 学位記番号　※	甲第３２号
Degree name 学位の種別	博士（作業療法学）
Issue Date 学位取得年月日	2019-09-30
Original Article 原著論文	
Doc URL　※	
DOI　※	
Resource Version ※	

様式 8-4（博士）　別記第６号様式

博士論文の内容の要旨

保健医療学研究科 博士課程後期 理学療法学・作業療法学専攻 精神障害リハビリテーション学分野	学籍番号　14D001 氏　　名　村上　元

論文題名（日本語）

被害妄想的観念の構造に影響する要因の検討

論文題名（英　語）

Factors affecting the structure of paranoid ideation

【背景】

被害妄想は統合失調症患者に最も多く生じる妄想の 1 つであり，well-being や患者の暴力との関連も指摘されることから，治療の対象とすべき重要な要因の一つと言える．

一方で，被害妄想は，健常者の被害妄想様観念まで連続的に分布していると想定されている．しかし，健常者群の持つ被害妄想様観念と統合失調症スペクトラム患者群が持つ被害妄想の影響要因の異同は明確になっていない．そのため，両群の被害妄想的観念の頻度，確信度，苦痛度といった 3 側面に対する影響要因について検証することにより，被害妄想的観念に対する理解が深まると考えられる．

このことを踏まえて，本論文では，以下の二点の目的で研究を実施した．まず，統合失調症スペクトラム患者の「不安」「心配」「抑うつ」「ネガティブな自己スキーマ」「睡眠」「離人感」の要因は，「被害妄想的観念」の頻度・確信度・苦痛度の 3 側面をどのように予測するかを明らかにすることを目的とした．第 2 に，統合失調症スペクトラム患者群および健常者群それぞれの，被害妄想的観念に関係する要因相互の関係性を含めた因果関係モデルを生成・比較し，類似あるいは差異を検討することにより，被害妄想的観念の連続体仮説の検討を目指した．

【方法】

研究 1 として統合失調症スペクトラム患者 80 名を対象とした調査を実施し，また，研究 2 として健常者 80 名を対象とした調査を実施した．それぞれの研究では，対象者に被害妄想的観念(JPC)，不安(STAI)，心配(PSWQ)，抑うつ(BDI-Ⅱ)，ネガティブな自己スキーマ(JBCSS 下位尺度)，睡眠(ISI)，離人感(CDS)を 1 ヶ月の間隔を置き，二度の調査を実施した．分析は，それぞれの研究において，まず，一度目の検査データを用いてパス解析を実施し，被害妄想的観念の頻度・確信度・苦痛度に対する影響要因を検討した．次に被害妄想的観念に直接の影響を与えた要因と，影響を受けた被害妄想的観念の側面の関係

について，交差遅延効果モデルにて検討した．最後に，研究 1 と研究 2 の結果から，統合失調症スペクトラム患者群と健常者群の被害妄想的観念を比較した．

【結果】

統合失調症スペクトラム患者群を対象とした研究 1 のパス解析により得られた結果から，被害妄想的観念の頻度には，心配，抑うつ，離人感が影響を示した．確信度には，心配とネガティブな自己スキーマが，苦痛度には，心配が影響を示した．さらに，縦断的な調査において，心配が被害妄想的観念の頻度を予測した．

一方で，健常者群を対象とした研究 2 のパス解析により得られた結果から，頻度には，抑うつが影響を示した．しかし，健常者の 1 ヵ月後の被害妄想様観念を予測する要因は明らかにならなかった．

研究 1・2 の結果の比較から，健常者群と統合失調症スペクトラム患者群の被害妄想的観念の影響関係では，いくつかの類似点を有していた．

【考察】

本論文の結果は，健常者の被害妄想様観念に対しては抑うつが重要であり，一方で，統合失調症スペクトラム患者群の被害妄想には，様々な要因が影響すること，また，特に心配が重要な要因となることが示唆された．統合失調症スペクトラム患者群と健常者群は，一部において類似の影響関係を示したことから，被害妄想的観念の連続性を支持するものであると考えられた．

キーワード（５個以内）：

「被害妄想的観念」「統合失調症」「交差遅延効果モデル」

【Background】

Persecutory delusion is one of the most common delusions in patients with schizophrenia spectrum. It is an important factor to be treated because it is associated with wellbeing and violence.

On the other hand, it is thought that persecutory ideation is distributed continuously from the ordinary ideation of the non-clinical population to serious ideation such as the persecutory delusion of patients with schizophrenia spectrum. However, the difference between the factors that influence the persecutory delusion-like ideation of the non-clinical population and the persecutory delusion of patients with schizophrenia spectrum is not clear. Therefore, this paper comprehensively understands persecutory delusion and the persecutory delusion-like ideation as persecutory ideation. It is thought that it is possible to deepen the understanding of persecutory ideation by examining factors affecting the frequency, conviction, and degree of distress of the non-clinical population and patients with schizophrenia spectrum.

This paper conducted research for the following two purposes. First, this paper aimed to clarify how "anxiety," "worry," "depression," "negative schema about self," "insomnia," and "depersonalization" in patients with schizophrenia spectrum and the non-clinical population affect three aspects of persecutory ideation. The second objective was to examine the continuum hypothesis of persecutory ideation.

【Method】

Surveys were administered to 80 patients with schizophrenia spectrum as Study 1 and 80 individuals in the non-clinical population as Study 2. In each study, the subjects were assessed two times at intervals of 1 month about persecutory ideation (JPC), anxiety (STAI), worry (PSWQ), depression (BDI-Ⅱ), negative schema about self (JBCSS), sleep (ISI), and depersonalization (CDS). In each analysis, first, pass analysis was conducted using the first data, and the influence factors of frequency, conviction, and degree of distress of the persecutory ideation were examined. Next, the relationship between the factors that directly affected persecutory ideation and the aspects of persecutory ideation was examined using the cross-lagged model. Finally, based on the results of Study 1 and Study 2, the persecutory ideations of patients with schizophrenia spectrum and the non-clinical population were compared.

【Result】

From the results obtained by the path analysis of Study 1 for patients with schizophrenia spectrum, the frequency of persecutory ideation was influenced by worry, depression, and depersonalization. Conviction was influenced by worry and negative-self schema. Distress was influenced by worry. Furthermore, in a longitudinal

study, worry predicted frequency of persecutory ideation.

On the other hand, from the results obtained by the path analysis of Study 2 for the non-clinical population, frequency was influenced only by depression. However, the factors that predicted the persecutory ideation of the non-clinical population were not clarified.

【Discussion】

The results of this paper suggested that depression is an important factor in persecutory ideation of the non-clinical population, while various factors affect the persecutory ideation of patients with schizophrenia spectrum. The frequency of persecutory ideation was affected by worry, depression, and depersonalization. The conviction of persecutory ideation was affected by worry and negative schema about self. The degree of distress of persecutory ideation was affected by worry. In particular, worry was an important factor. Because the persecutory ideation of patients with schizophrenia spectrum and the non-clinical population was similar in part, the continuum of persecutory ideation was considered to be supported.

Key words（５個以内）：

「persecutory ideation」「schizophrenia」「cross-lagged effects model」

様式7-8（博士）

博士論文審査の内容の要旨

報告番号	第　３２　号	専　　攻　理学療法学・作業療法学 教育研究分野　精神障害ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学 （研究指導教員　池田　望） 氏　　名　村上　　元
論文題名	被害妄想的観念の構造に影響する要因の検討	
審査委員	主　　査　松山　　清治（札幌医科大学保健医療学研究科） 副 主 査　河西　　千秋（札幌医科大学医学研究科） 副 主 査　中村 眞理子（札幌医科大学保健医療学研究科） 副 主 査　山本　　武志（札幌医科大学保健医療学研究科）	

本論文は，統合失調症の主要症状の一つである被害妄想に影響する要因，および健常者の被害妄想様観念と統合失調症患者の被害妄想が連続体であるとする仮説のそれぞれについて統計学的手法を用いて検証を試みたものである．

具体的には「被害妄想」と「被害妄想様観念」を「被害妄想的観念」という包括的な概念でくくり，第一の研究として統合失調症スペクトラム患者において被害妄想の影響要因と想定される「不安」「心配」「抑うつ」等が，「被害妄想的観念」の「頻度・確信度・苦痛度」の３側面にどのように影響するかを検証した．次いで第二の研究として，統合失調症スペクトラム患者および健常者両群の被害妄想的観念への影響要因に関する因果関係モデルを横断的および縦断的に比較することで，被害妄想的観念の連続体仮説について検証した．

この結果、第一の研究では，統合失調症の被害妄想的観念は「心配」などの多様な要因から影響を受けており，「頻度・確信度・苦痛度」の３側面でそれぞれが受ける影響要因は異なることが明らかとなった．第二の研究では，健常者の被害妄想的観念について統合失調症スペクトラム患者と類似する影響要因が一部認められ，被害妄想的観念の連続体仮説を支持する結果が得られた．

令和元年８月１日に開催された論文審査会において，各審査委員からは，本論文はしっかり取り組まれた研究であり，精神病理学の観点からも大変興味深く，本研究成果は臨床的意義も有するとの評価がなされた．加えて，本論文の内容を充実・補強するための有益な助言や貴重な意見が出され，これらの助言や意見に沿って本論文を修正した結果、審査委員全員から修正内容は適切であり，論文内容も一層充実したとの評価がなされた．

今回の博士論文審査にあたり，未発表の申請論文に加えて，申請者を筆頭著者とする参考論文２篇が提出されたため，審査委員会において参考論文の適否についての審査も行った．この結果，２篇の論文とも 2018 年に全国誌レベルの学術誌に原著として掲載されたものであり，申請者の研究分野との関連性もあり，また論文作成の手引き（2019 年 5 月改訂版）に記されている参考論文として備えるべき５つの条件を満たすことも確認されたため，参考論文として適格であると判断された．

以上より，本審査委員会として，本論文は新規性や発展性に富む優れた内容を包含して学術的にも高い価値を有し，また研究の独自性や精度の高さに加えて作業療法学の発展に寄与・貢献する可能性も認められたことから，博士課程後期の達成水準を満たし，博士（作業療法学）の学位を授与するに相応しいと判断し，合格と判定した．